

4章 温泉市街地ゾーンの景観ガイドライン

- ・以下においては、伊香保町の中心市街地であり景観整備の緊急性の最も高い「温泉市街地地区」に関する景観ガイドラインの検討を行う。

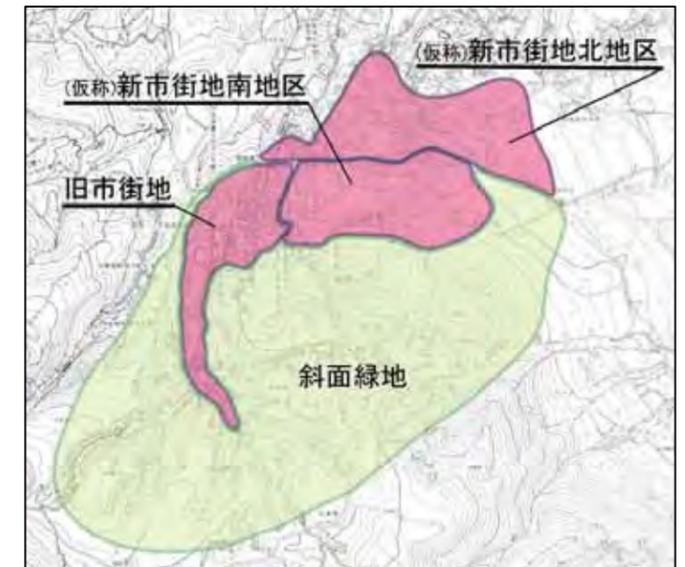
1. 景観構造の分析と評価

(1) 温泉市街地の景観構造

- ・伊香保温泉の歴史はすでに1章で整理したが、16世紀の武田領の時代に石段街が造成され、湯元から引いた湯を分湯して石段の左右に温泉宿が整備されたのが、最初の旅籠街の成立であった。
- ・その後、江戸、関東への人口の集積が進むと共に伊香保温泉も繁栄し、石段街の東側を中心に温泉地に付随する飲食やサービス等の多様な家作が増加し、石段街地区の発展が見られたが、明治24年の大火の後には、さらに東側の八千代坂東部地区において、新たな分湯による温泉街開発の動きが生じた。
- ・この新市街地の発展には紆余曲折があったものの、明治23年の伊香保御用邸の開設や、明治末期における、高崎、渋川方面からの路面電車の軌道敷設などによる湯治客や保養客の増加にともなって、温泉市街地拡大の動きは次第に本格化し、新市街地に置ける温泉旅館や別荘の建設が次第に増加した。
- ・このような旧市街地東側における市街地拡大の傾向は、戦後の昭和30年代からの観光ブームによってさらに本格化し、石段街を中心とする旧温泉市街地を核としつつ、主要地方道渋川・松井田線の南北において、大型温泉旅館群の建設が増加した。
- ・その結果、現在の温泉街は湯元から石段街そして八千代坂付近までの「旧市街地」と、八千代坂から東側の「新市街地」とに大別され、さらに「新市街地」は、主要地方道渋川・松井田線をはさんで、斜面上部の“新市街地南地区”と下手の“新市街地北地区”に区分される。
- ・この内「旧市街地」は、400年以上に及ぶ温泉地整備の歴史の中で、かなり高密度な開発が行われているため、自動車が容易に入り込めない細街路が入り組んでおり、良く言えば急傾斜地の地形の中に、ヒューマンスケールで変化に富んだ比較的歩きやすい市街地が形成されている。
- ・一方、新市街地は、モータリゼーションに対応した街路整備が行われており、バス等の大型車両も通行可能な道路が傾斜地を斜行する形で整備されているが、歩行者には、単調で距離の長いやや歩きづらい道路構造となっている。
- ・新市街地上部の急傾斜地にある“新市街地南地区”は、地区内の大半を旅館が占めており、中央部には自然林を主体とした緑地帯がかなり残されているため、比較的良好な宿泊滞在環境が維持されている。

- ・一方、“新市街地北地区”は、旅館の立地する場所は商業地域に指定されているものの、一般住宅との密度の高い混在が生じているため、景観的に温泉旅館街の雰囲気を作り出すことは容易ではない。
- ・その他、2章の「地区景観に関する評価」でも記したが、温泉旅館群が高密度に建ち並ぶ温泉市街地ゾーンにとって、市街地の南側と東西方向を取り巻く「斜面緑地」は、市街地の無機質な建築群のイメージを緩和し、自然性豊かな温泉地のイメージを作り上げる上で重要な役割を果たしており、本来であれば風致地区の指定をかけて厳しく保全管理すべき緑地である。
- ・今後の伊香保温泉の発展にとって、この市街地を取り巻く斜面緑地と北方に広がる山岳パノラマ景観は、都市住民の再訪を促す上で重要な役割を担う自然景観素材であり、適切な保全活用策が講じられていく必要がある。

図4-1 温泉市街地ゾーンの景観区分



伊香保温泉街の三方を取り巻く斜面緑地。この緑の量感が市街地景観の無機質なイメージの緩和と、潤い感の提供に重要な役割を担っている。

(2) 温泉市街地ゾーンの景観評価

- ・伊香保温泉は、歴史のある温泉地であるだけに、温泉市街地内には歴史性や由緒を感じさせる魅力ある景観素材が多数存在する。
- ・また、寒冷地の北向きの傾斜地に形づくられた温泉街市街地として、克雪や緑の育成などにも不断の努力が払われてきており、これらの点に関しても評価すべき点は多い。
- ・温泉市街地ゾーンの景観評価を概略図上に表示すると（図 4-2）のようになる。

図4-2 温泉市街地ゾーンの景観評価

○石段街

・石段街では歴史や文化の雰囲気や温泉情緒が所々で感じられる。



○路地空間の界索性

・旧市街地においては、石段脇から東西方向に抜ける路地空間に、観光商業店舗や飲食店舗が張り付いている箇所が多く、やや複雑感のある温泉地らしい界隈空間が形成されている。



○緑地

・斜面地に緑地が残されている。

○沿道部植栽

・敷地内の沿道部に植えられた木が、並木の役割を果たしている。



○周辺の傾斜緑地

・傾斜地であるため、市街地の背後にある斜面地の樹林が目に入りやすく、市街地内の建築密度が高い割には自然性の豊かさを感じられる。



○古木 ▲

・市街地内の所々に古木や豊かな樹林が残されており、温泉地の歴史や風格を感じさせると共に、まちの分かりやすさや潤い感にも寄与している。



○目隠しの塙 ●

・業務上不可欠な資材置き場や自動販売機を塙で囲い、観光客の目に触れないように配慮している。



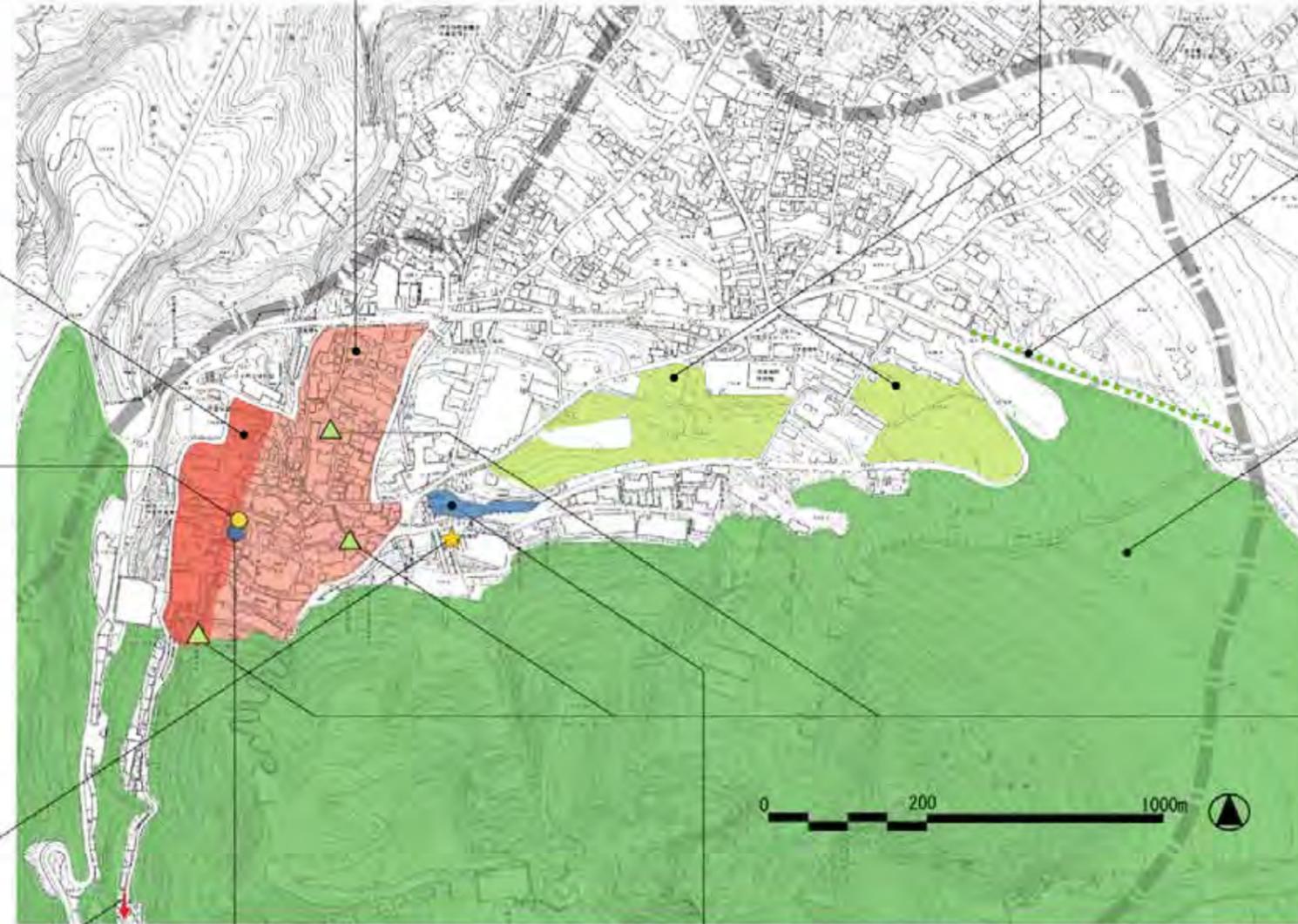
○まちの駅 ★

・まちの駅は地区の新しいランドマークになっており、さらに施設内容でシンボル性を高めたい。



○湯元・芦花公園 →

・造園的に処理された石組みや植栽が時代とともに風格を増し、場のイメージを向上させている。



○ポケットパーク

・石段街脇のポケットパークは、自然素材を用いたデザインであるが、やや親しみや落ち着きに欠けてしまっている。

・文学の小径は、樹木が植栽された落ち着いた雰囲気のデザインである。但し、小径の両端が途切れてしまっている。



●景観に配慮したデザイン

・温泉街の風情と調和した落ち着いたデザインの誘導サインや看板が設置されている。



2 . 温泉市街地ゾーンの景観の課題と目標

(1) 景観の課題

- ・伊香保温泉は、江戸・明治・大正・昭和へと絶えず発展し続けた温泉地であり、その間何度かの大火の影響を受けつつも常に再生の道をたどり、現在の高密度な温泉市街地の形成へと結びついている。
- ・しかし、時代の変化や社会経済状況の変化と共に、景観的な問題も次第に顕在化しており、特に近年、国民の海外旅行体験が増加し、欧米の観光地を体験した目の肥えた都市住民が増加すると共に、国内温泉観光地の街並み景観や固有の文化景観の悪化や、温泉情緒の欠如等に対する不満が拡大する傾向にある。
- ・したがって、伊香保温泉においても景観課題の発見と改善が緊急の課題となっており、このような観点から温泉市街地ゾーンの景観課題を概略整理すると（図 4-3）のようになる

図 4-3 温泉市街地ゾーンの景観課題

○街並みが乱雑

・高密度な街並みであるにもかかわらず、建物の向きや様式、屋根の色彩等がバラバラであり、街並みに統一感やまとまりが感じられない。



○路地空間が衰退している

・商業・飲食店舗は、ヒューマンスケールの魅力がある空間ではあるが、近年衰退傾向にあり、建物や路面の劣化が進んでいることから、その再生策が求められている。



○幹線道路によって地区が分断されている

・市街地の中心部を通る県道が、道路軸とならずに地区を分断してしまっている。
・沿道部の土地利用や道路環境の向上によって、人が集まる道となることが期待される。



●道路パターンがわかりにくい

・急な坂道は不慣れたドライバーの不安感も大きく、歩行者にとっては道を間違えることによるリスクが大きい。道路パターンがわかりにくい。
・カーブの多い坂道では方向を見失う場合があり、道に迷って細街路に迷い込んでしまうこともある。



○石段街が活気に欠ける

・商売を止めて空き店舗や住宅化した建物が増加し、石段街の活気や趣が低下している。



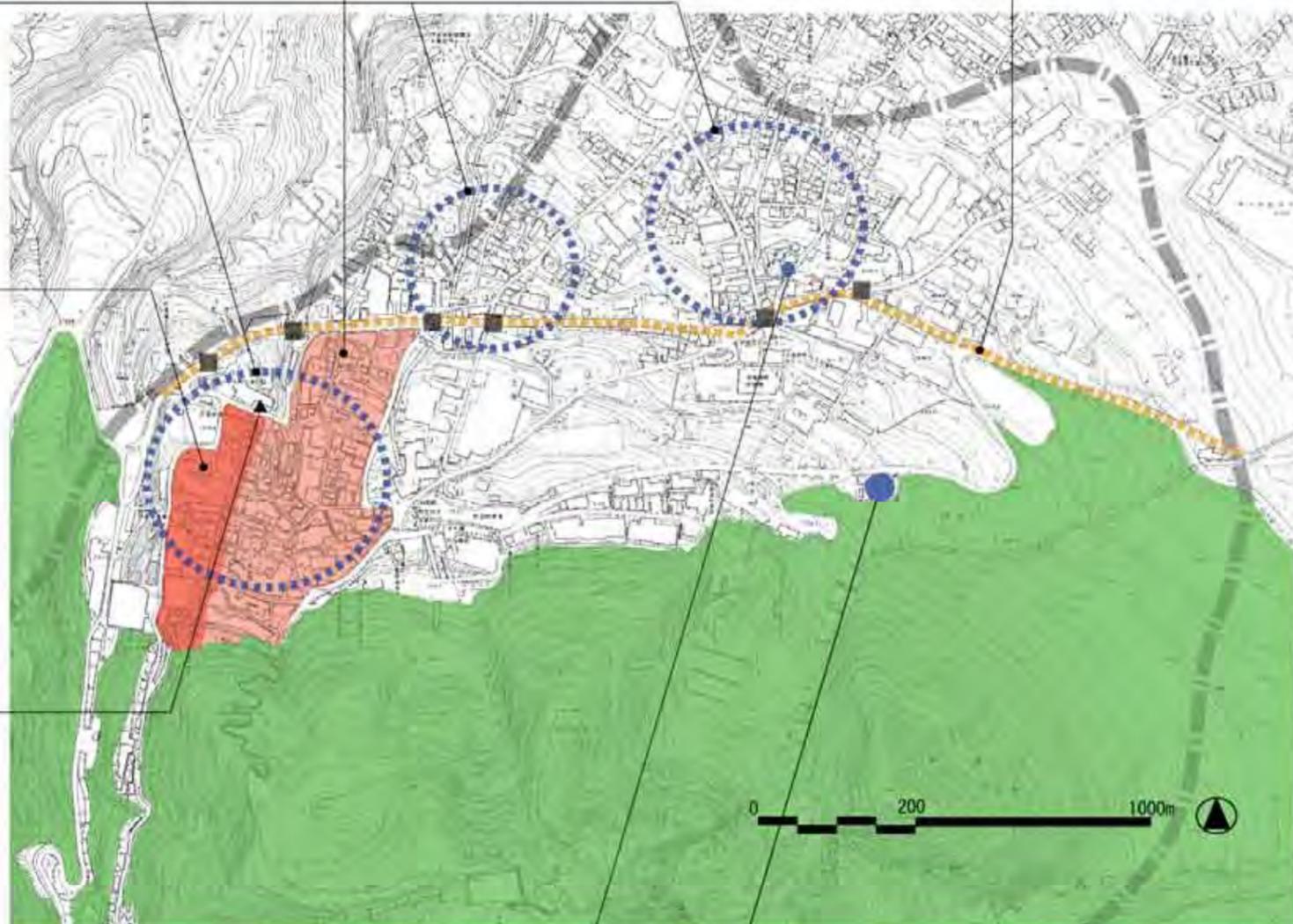
○アイストップの景観が煩わしい ▲

・メインストリートの石段街の突き当たりにおいて建物の裏側スペースが丸見えになっている。
・目につきやすい場所（アイストップ）であるだけに、景観対策が望まれる。



○駐車場や産業施設等が丸見え ●

・観光地の沿道部における、駐車場や産業施設、住宅設備等の露出は好ましくない。



●沿道の看板類(民間)が乱雑で目障り

・多くの旅館や観光施設の看板が、交差点や沿道に設置されている。
・個々の看板はハイセンスなものも少なくないが、並べてしまうと不調和で、乱雑な景観になってしまう。
・石段街においても看板類のコントロールが必要とされる。



●交差点がわかりにくい ■

・坂道が多く、道路幅員も狭いことなどから、幹線道路でも交差点の位置がわかりにくく、地図を見ても通り過ぎてしまうことが少なくない。



●誘導サインがわかりにくい

・斜行する道路が多い上に、誘導サインもわかりづらいため、交差点で迷うドライバーも少なくない。



●誘導サインが不統一

・設置主体や設置時期、そしてデザインの異なる公共の誘導サイン類が乱雑に立ち並んでおり、まちの景観を悪化させている。



(2) 景観形成の目標と方針

< 地区景観形成の目標 >

- ・伊香保町の景観の現況と課題を踏まえ、温泉市街地ゾーンにおける景観形成の目標を次のように設定する。

《目標》

万葉の代から培われた伊香保温泉の歴史と文化とを礎として、榛名山麓の杜に囲まれたのびやかな斜面を活かし、

「“自然風致と眺望”、“歴史文化と風格”、そして“温泉情緒と心の温もり”を感じさせる、魅力ある温泉市街地の景観を創造する。」

- ・伊香保町の中心地区である「温泉市街地ゾーンの」景観形成のねらいは、伊香保町全体のねらいに合致したものでなければならず、しかも象徴的な意味合いを備えている必要がある。
- ・伊香保町全体の景観形成の目標は「趣と風格、そして心の温もりを感じさせる温泉まちの景観を創造する」ことであるが、中心市街地である温泉市街地においては、さらに誘客の魅力要素ともなる歴史文化性や温泉情緒がより強調されるべきと考えられる。
- ・したがって、これらの要素も含めた多様な視覚的な魅力を持つ目標像を設定し、質の高い温泉地景観を目指すことを目標とする。

< 地区景観形成の方針 >

- ・温泉市街地ゾーンの景観形成の目標を達成するため、次のような景観形成の方針を掲げる。

《方針》

温泉街の街並み景観の向上を図る

美しく快適な環境づくりを進める

四季・昼夜間を通じた光の魅力づくりを進める

温泉市街地の景観イメージとして和風や大正浪漫への配慮を図る

観光拠点としての石段街の魅力向上を図る

領域の明確化やわかりやすさに配慮し、交差点やまちの出入り口を特色づける

自動車、歩行者への景観的な対応を図る

規制、誘導方策を検討する

- ・温泉市街地の長期的な発展を図るため、長期的な視点の基に上記の方針を掲げている。
- ・これらの方針には、ただちに取り組むことが困難なものも含まれているが、少なくとも先に挙げた目標を形骸化させないと言う姿勢を明らかにする意味から、必須の留意事項を示したものである。
- ・の美しい環境づくりにおいては、伊香保の花である“ツツジ”を主体として、日照条件も考慮しつつ「花のまちづくり」なども進める。
- ・の様式に関しては、石段街を中心とした旧市街は、当地区の歴史財である石段や伊香保神社、旧ハワイ国公使別邸等とのバランスを考慮して「和風」を重視し、まちの駅や夢二記念館を擁する新市街地は「大正浪漫」を指向し、その変化を楽しめるようにすることを検討する。

～ 「大正浪漫」とは ～

- ・大正時代から昭和初期にかけての建築デザインの特徴は、旧来からの日本の技術を持って洋風の装飾を模した擬洋風や（和洋）折衷主義建築が、近代主義（モダニズム）建築へと徐々に移行していく過程の多様性にある。
- ・近代主義建築は、俗に「豆腐を切ったような」と言われ、装飾的細部を欠き、均一で滑らかな表面を持つ四角い箱のイメージとしてあげられる。
- ・大正時代の街並みは、既存の純和風の日本建築の中に、西洋の流れを受けた折衷主義と近代主義の建築が混在していた。
- ・一方、社会風俗においては、多くの西欧文化が押し寄せ、開襟シャツにコットンパンツにカンカン帽のサラリーマン、ラップズボンにステッキのモボ（モダンボーイ）や、パーマネットにハイヒールのモガ（モダンガール）が街を歩き、キネマ、ダンス、スポーツ等が好まれ、カフェは大流行し、街にはカタカナが溢れた時代でもあった。

3. 温泉市街地ゾーンの景観ガイドライン

(1) 景観整備の方向

- ・温泉市街地ゾーンの景観評価と課題を踏まえ、景観形成の目標と方針に対応した景観整備の方策を整理すると以下のようなものとなり、その概略を図示すると（図 4-4）のようになる。

(2) 景観ガイドライン

- ・なお、ここで取りあげた景観整備の課題と方向について、次の各整備項目の景観ガイドラインシートを以下に整理する。

【景観ガイドラインの項目】

<マイナス要因の除去>

- (1) 駐車場等の景観対策
- (2) 清掃と維持・管理の徹底
- (3) 統合看板（サイン）の整備

<安全性の確保とわかりやすさの創出>

- (4) 公共サイン計画の策定と推進
- (5) 交差点の整備

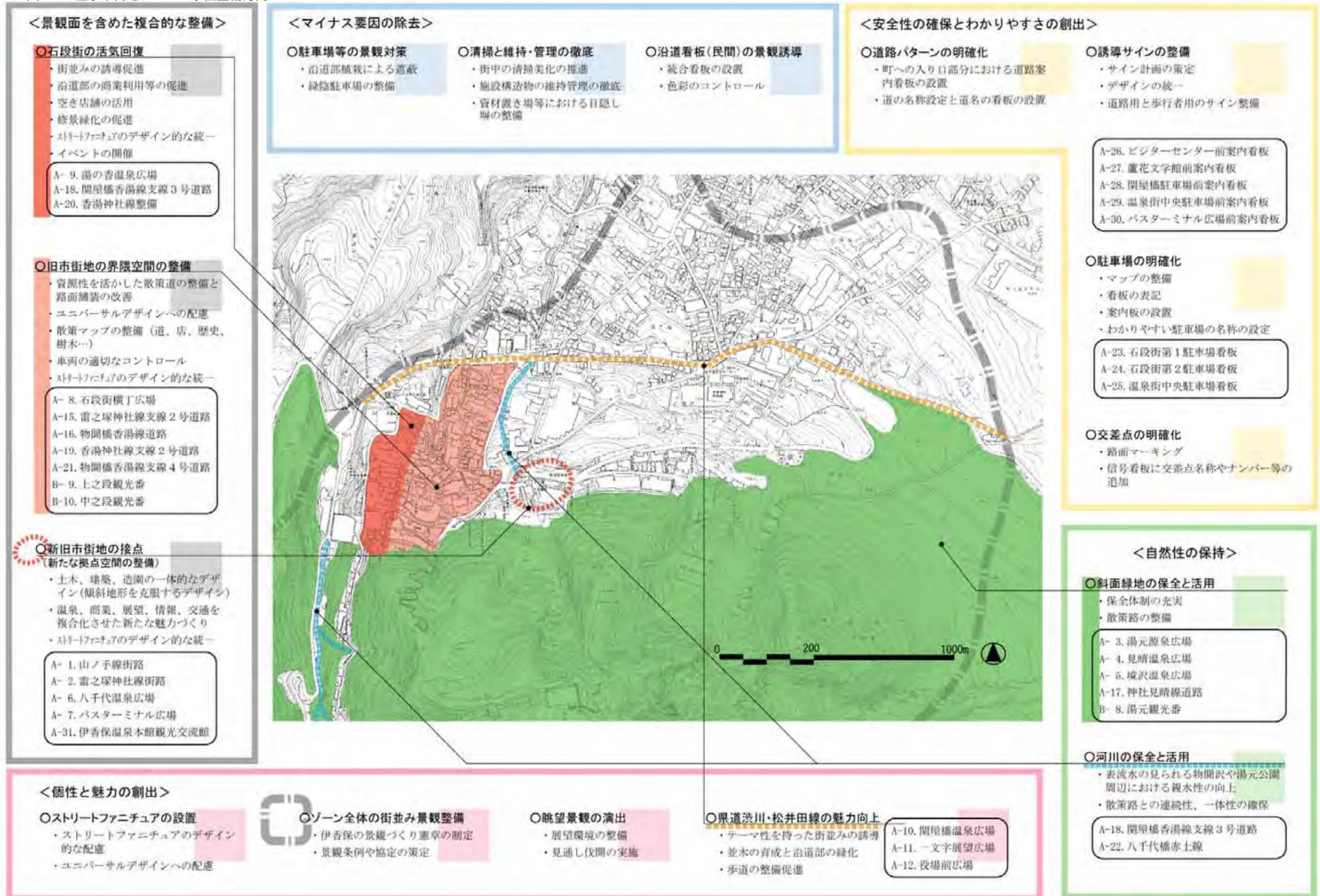
<自然性の保持>

- (6) 緑地の保全と活用
- (7) 水辺環境の演出

<個性と魅力の創出>

- (8) ストリートファニチュアのデザイン的な配慮
- (9) 建築、公共施設の景観誘導
- (10) 眺望景観の演出
- (11) シンボル道路の整備

図4-4 温泉市街地ゾーンの景観整備方向



< マイナス要因の除去 >

(1) 駐車場等の景観対策

現状の問題点と課題

- ・伊香保温泉は、傾斜地に高密度な市街地が形成されているため、中心市街地における屋外駐車場は、温泉市街地の景観を分断し、また部外者を拒絶する柵等で囲まれているため、単調で間延びした空間を生じさせやすい。
- ・特に、樹木や障害物を一切取り除いた、機能面のみを考慮した平面駐車場は、閉鎖的で殺風景な景観を生じさせる。
- ・駐車場のこのような景観的なマイナス面を緩和するのみでなく、温泉市街地の景観を向上させるような、景観的な魅力を持つ駐車場整備を進めることが期待される。

景観デザイン上の留意事項

沿道部の緑化

- ・防犯面にも配慮しつつ、駐車場の道路に面する部分ではできる限り緑化し、大量の駐車車両が丸見えにならないようにすると共に、道路景観の向上を図る。同様に産業設備や業務用設備などが丸見えにならないよう、沿道部における目隠し植栽や目隠し塀の設置をおこなう。

駐車場内の緑化

- ・駐車場内も適宜緑化する事により、外からの眺めで花や紅葉等の季節感を楽しめるようにし、温泉街の景観の向上に結びつける。

駐車場施設の屋根形態

- ・駐車場内に屋根等の構造物を設置する場合は、周囲の地形や建築と調和するよう陸屋根は避け、切り妻等の傾斜屋根を付けるよう配慮する。



駐車場と道路との境界部分がフェンスのみでは、道路側に対しても、また駐車場内部も殺風景なイメージになってしまう。



同じ駐車場でも、外苑部に緑地帯があると、道路景観を快適にすると共に、駐車場内の車が丸見えにならないので、無機的な景観が緩和される。



駐車場外縁部に植栽された(保存された)樹木が道路景観を豊かにすると共に、駐車場の殺風景なイメージを緩和する。



林間駐車場。車があってもなくても緑豊かな美しい景観が通りすがりの人々の目を楽しませる。



適度に植栽が施された緑陰駐車場。防犯上からは自動車が完全に隠れてしまわないような配慮が必要である。



430年の歴史を持つ温泉地としては、未来に向けてこのような大木に囲まれた重厚な駐車場づくりを目指す意気込みもほしい。

【備考】

- ・古い歴史を持ち、傾斜地に高い密度で建築が立ち並ぶ温泉地である伊香保町では、駐車場は敷地から離れた場所に確保されている場合が多いが、旅館の敷地内同様に町全体の景観の向上に寄与するような景観的配慮がおこなわれることが期待される。

(2) 清掃と維持・管理の徹底

現状の問題点と課題

- ・伊香保町では、美しいまちづくりの一環として、道路清掃や花いっぱい運動などの修景美化活動を実施している。伊香保温泉中心市街地においては、日頃の清掃活動によって路上のゴミはほとんど目立たないが、まだ一部で錆びついた看板や色あせたのぼりなどが放置されているところも見られる。
- ・また、観光動線沿いにも、ペンキが剥げ落ちて錆が目立つ配管設備や朽ちかけている鳥居など、適度な維持・管理が行き届かずにみすぼらしさを露出してしまっている箇所もあり、このような一部の施設の維持管理の悪さが、町全体のイメージを低下させてしまう恐れがある。
- ・観光客を迎え入れる温泉観光地の景観的な配慮として、観光エリア全体の清掃と施設類の維持・管理の徹底は基本的な取り組みであり、特に今後は観光客の温泉街散策の増加が予測されることから、市街地全体で汚く見えるものを除去し、施設等の維持管理も徹底していく必要がある。

景観デザイン上の留意事項

構造物の維持・管理

- ・来訪者が目にする構造物は、長期修繕計画に基づき適切な維持・管理を行う。特に、鉄部の塗装は、錆びると見た目にも悪く、放置しておくとも崩壊する危険性も高まるため、安全管理の面でも徹底して行う必要がある。

宗教施設の維持管理

- ・石碑、道祖神、寺社等の地域にまつわる歴史的、宗教的な施設は、維持管理の悪さがそのまま地域の経済や文化の衰退イメージに結びつきやすいため、適切な維持・管理が出来ない場合には放置せずに廃止処理を行うことも検討すべきである。

バックヤード等の遮蔽・修景

- ・宿泊施設や商店等のバックヤードが、一般の来訪者が通行する道路に面している場合は、搬入物を置かないようにするか、塀や植栽で目隠しをする配慮が必要である。



さび付いて、使われなくなって放置されているようなイメージを与える配管設備



路上放置されている錆びついた看板類



宗教施設は清楚な環境を保ちたい。維持管理の悪さは、地域イメージの低下に結びつく可能性がある



観光客が通行する道沿いでは、右のような目隠し塀や目隠し植栽の配慮を期待したい



収集ゴミについても、一時保管のための目隠し塀や収納庫の整備をより充実させたい

【備考】

- ・放置ゴミ同様に、道路などから見える施設の維持管理の悪化は、町全体のイメージを低下させる可能性があるため、客間づくり同様に常日頃からの繊細な心遣いが求められる。

< 安全性の確保とわかりやすさの創出 >

(4) 公共サイン計画の策定と推進

現状の問題点と課題

- ・高崎や渋川方面から伊香保温泉に向かう車は、国道・県道の道路標識を辿ることにより比較的容易に到達できる。しかし、伊香保町の中心部に入ると、民間の誘導看板ばかりが目立ち、町内の地名・名称サインや誘導サインが不統一で、配置も適切とは言えないため、初めて訪れた観光客は現在位置や目的地方向が把握出来ずに道に迷うことになりやすい。
- ・伊香保温泉に多くの来訪者を円滑に誘致するためには、はじめて訪れる人でもスムーズに目的地まで到達できるよう、次頁に示すような一般的な公共サインシステムの体系に基づいて、町全体の「サイン配置計画」を策定し、各種サインを整備する必要がある。
- ・サイン整備にあたっては、サイン自体が景観の重要な要素として地域イメージの形成にも結びつくことから、洗練された魅力ある温泉市街地にふさわしい、周辺環境とも調和する「サインデザイン計画」を策定することも必要である。

景観デザイン上の留意事項

サイン計画の進め方

- ・公共サインには、総合案内サイン、誘導サイン、名称サイン、解説サイン、特殊サインなどがあり、それらのサイン類を体系的に配置していくことが必要とされる。
- ・この場合、初期段階では、「総合案内サイン」と「誘導サイン」を適切に組み合わせながら、観光地内の要所に配備することが必要となる。

公共誘導サインと民間誘導看板の共架

- ・また、公共の「誘導サイン」に関しては、市街地景観の向上を図る上では、民間の誘導看板との一体掲示（共架）を考慮する必要がある。特に伊香保温泉のような宿泊施設が密集している地域では、公共・民間のサイン類の統合化は重要な課題となる。

サインデザインの基本要件

- ・サインのデザインにおいては、必要の無い人には目に付かず、必要とする人にはすぐに見つけられるデザインとすることが肝要となる。

【周辺環境と不調和なサインの例】



美しい紅葉の中で、主役の紅葉よりも目立ち景観を悪化させている看板



歴史的な建造物の前で、工事現場を連想させるような不調和なデザインの誘導サイン

【周辺環境に調和しているサインの例】



周囲の環境に溶け込む、重厚で落ち着いたデザインの誘導サイン



一枚板で文字は行書体を用いた、和風で環境と調和した、目立たない看板であるが、道に不案内な人には赤いアクセントカラーが着いているので見つけやすく、非常に質の高い看板。お金をかけなくてもこのような上質なサインは整備できる

公共サインの種類とデザインイメージ例



案内サイン

案内サインは、地域の顔としての役割も果たすため、デザイン的な配慮が必要である。
自然地域などの案内においては、地形模型を活用した案内サインも効果的である。



誘導サイン

誘導サインも、地域のイメージづくりにつながるため、デザイン的な配慮が必要である。
誘導は、車用と歩行者用とを分けて検討することが基本である。また、多数の施設を紹介する場合はサインの林立を避けるために、複合型のものを設置する

名称サイン

名称サインには地域・地区名、道路名、施設名などがあり、それぞれ案内、誘導サインからの流れに沿ったデザインイメージで整備することが望ましい。



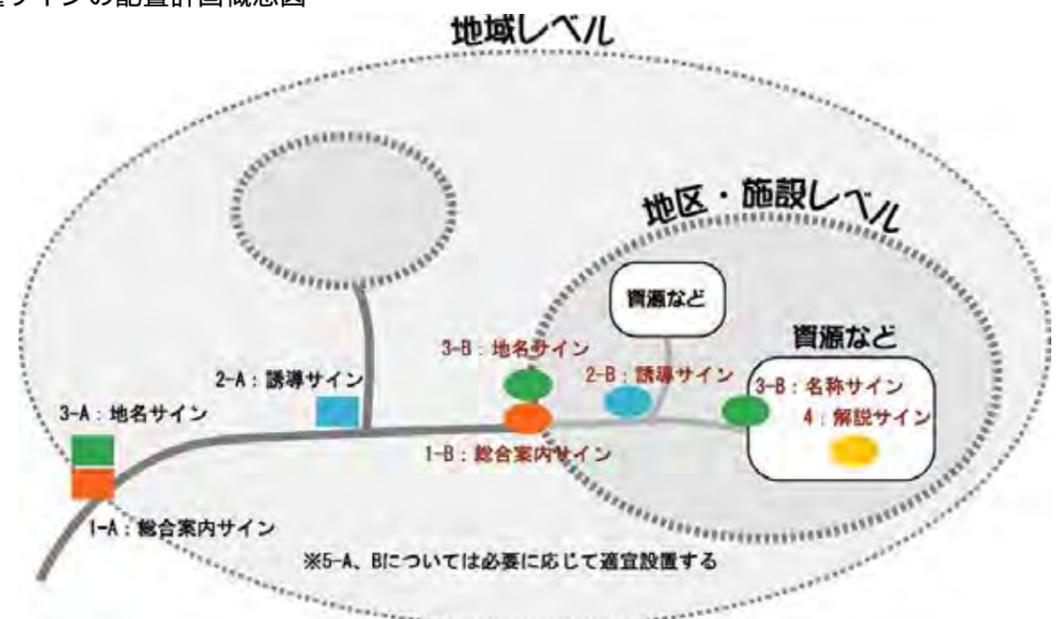
解説サイン

解説サインは、解説者がいなくても対象施設などの概要が分かるようにしなければならない。
また、子供や外国人への配慮や、分かりやすく読みやすい表示デザインが望まれる。

公共サインシステムの考え方 [サインの体系]

サインの種類	区分	設置位置	性格
1 総合案内サイン	A 地域レベル	地域・地区等の入口、公共案内所、駐車場等に設置する。車を止め、じっくり情報を得るための条件整備も重要	観光地全体あるいは特定地区や施設内について道路、主要資源・施設の配置や位置関係を示し対象地域・地区全体像を把握させるためのサイン
	B 地区・施設レベル		
2 誘導サイン	A 地域レベル	主要な交差点や沿道等のわかりやすい位置に設置する	目的とする拠点・施設・資源への適切な誘導を行うためのサイン
	B 地区・施設レベル		
3 名称サイン	A 地域レベル	地域・地区や特定施設の入口に当たる部分に設置する	特定の地域・地区や施設・資源の地名や名称を表示し、入口ではゲートサインの役割なども担うサイン
	B 地区・施設レベル		
4 解説サイン		特定の施設や資源の入口や展望・見学・観察位置に設置する	個別の施設・資源や周辺環境に関する紹介や解説を行うサイン
5 特殊サイン	A 注意・規制	適宜	危険な場所や禁止行為などを表示するサイン
	B C1	適宜	スローガン、宣言等のサイン(設置者の自己満足としか感じられず、不要と思われるものや、目立たせようとするがために、景観を損ねているものも少なくない)

各種サインの配置計画概念図



(5) 交差点の整備

現状の問題点と課題

- ・伊香保温泉市街地は坂道の交差点が多く、道路幅員も狭く建物が道路境界に沿って建っていることなどから、幹線道路でも交差点の場所がわかりにくく、初めて訪れた人は交差点に気がつかずに通り過ぎてしまうことが少なくない。そのため、各旅館等への大型誘導看板も増加することになる。
- ・来訪者には交差点の位置のみならず、地区名称や道路名称もほとんどわからないため、目的地への到達が容易ではない。
- ・信号機の無い交差点では、人と車、共に出会い頭の衝突の危険性もあるため、この点からも交差点の明確化は必要とされる。



右折路は下り勾配で見えにくいため、停車車両が横断歩道上にはみ出していなければ、右折路があることはわからない。



正面のビルの手前が、T字交差点になっていることは来訪者には全くわからず、道に迷うことになる。その為数多くの誘導看板が乱立する。

景観デザイン上の留意事項

交差点をわかりやすくする方法

- ・交差点をわかりやすくする方法としては、路面マーキングや交差点への構造物の設置、交差点サインの表示などがある。また、交差点角地の道路用地の確保が可能であれば、交差点の形状をわかりやすく整えることは十分可能であるが、現状では各交差点における道路用地の確保は容易ではない。

路面マーキング

- ・交差点をカラーアスファルトや舗装用石材で舗装し、道路との色や質感の違いで交差点を明示する。
- ・また、舗装にあたって、ハンプ等で路面を盛り上げ、車両の通過速度を低下させる手法もあるが、幹線道路の場合は難しい。



カラーアスファルトを使用した路面マーキングの例(東京都東村山市)

構造物の設置

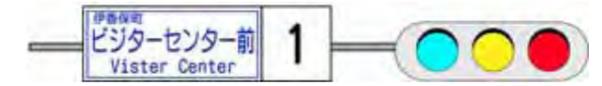
- ・交差点の上部に、信号や地名表示等の機能を兼ねた構造物を設置する事により、交差点の位置をわかりやすくする。
- ・ただし、伊香保温泉の市街地は歩道が未整備で道路幅員もゆとりが無い場所が少なくない上、建物も密集しているため、景観的に混乱を来す恐れがあるため、慎重な対応が必要とされる。



交差点上部に信号や地名表記を兼ねた構造物を設置し、交差点をシンボリックにした例(茨城県つくば研究学園都市)

サインの充実

- ・町内の各交差点に名称と番号を付け、交差点にサイン表示する。
- ・観光マップや総合案内看板等において交差点名称と番号を明示することにより、観光客が自分の位置や進行方向を理解しやすくなる。



既存の交差点名称標識に番号を付けたイメージ図



景観に配慮した交差点名称標識に番号を付けたイメージ図

景観的配慮した信号機

- ・交差点の景観を向上させるため、信号機や支柱も、明度を落としたこげ茶色等に塗装する。これによって、信号の色や標識類が見やすくなる。



信号と照明を共架し、支柱を目立たなく塗色する(有馬温泉)

【備考】

- ・交差点の名称表示をわかりやすくするためには、交差点付近に掲示されている民間の沿道看板類を整理統合し、交差点付近の景観をすっきりとさせることが重要な要件となる((5)統合看板の整備参照)。

< 自然性の保持 >

(6) 緑地の保全と活用

現状の問題点と課題

- ・伊香保温泉街を取り巻く物聞山等の斜面緑地は、建築密度の高い温泉街に自然性を付加し、また四季の変化や一日の光の変化を演出する上でも重要な役割を果たしている。
- ・さらに、市街地内に残された斜面緑地についても、樹木があまり多いとは言えない温泉市街地内における自然景観要素として重要な役割を果たしていることから、出来る限りこれらの斜面緑地の保全を進めて行く必要がある。
- ・一方、これらの斜面緑地に関しては、保護するだけでなく適切な活用策も検討していく必要がある。



温泉市街地を取り巻く斜面緑地の保全は、伊香保温泉街の環境を保つ上で不可欠の要素となっており、将来に向けた保全体制を講じておく必要がある。



市街地内に残された自然林も、伊香保温泉街の自然性を維持する上で重要な存在であり、その適正な保全策が期待される。

景観デザイン上の留意事項

保安林指定等の継続

- ・市街地を取り巻く斜面緑地は保安林の指定を受けており、また、一部の斜面地は急傾斜地崩壊危険地区にも指定されていることから、防災と自然環境の保護の両者の視点から、今後も保安林指定等による保護体制を継続していく必要がある。
- ・市街地内の残存緑地に関しても、できれば風致地区（都市計画法）か保存緑地（都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律）指定の可能性を検討する必要がある。

景観歩道の整備（町の既存計画）

- ・町では伊香保ロープウェイ山頂見晴駅から、上の山山麓を通過して伊香保神社に下る遊歩道を「景観歩道」として再整備することを検討しており、また、遊歩道沿いの樹林地では、森林ボランティアによる森林保全の体験学習の場づくりを検討するなど、斜面緑地の保全・活用に関する計画策定を進めており、身近な自然への町民の愛着の増加に向けたさまざまなプログラムの展開が期待される。



斜面緑地内における景観歩道計画（伊香保町資料による）

砂防堰堤の景観処理

- ・斜面緑地内に多数設置されている砂防えん堤等の土木施設についても、特に遊歩道等から見える施設については、風景に溶け込み目立たなくなるように自然石張りなどで景観処理が施されることが望ましい。



自然石張りによって景観への調和を図った砂防堰堤

【備考】

- ・北向きの眺望条件の良い斜面ではあるが、急傾斜地が多く、また砂防工事箇所や土地崩壊等の危険箇所も少なくないため、過度の利用は避ける必要がある。

(7) 水辺環境の演出

現状の問題点と課題

- ・伊香保町内の河川は通常は水の無い枯川が多いが、温泉市街地内には小河川があるため、水辺の潤いの感じられる空間として効果的に活かしていく必要がある。
- ・温泉の捨て湯等も流れているため、湯煙の演出なども検討すべきと言えよう。
- ・特に温泉街を流れる物聞沢は、今後温泉の捨て湯の量が増加する可能性があるため、水辺の潤い感や温泉情緒を醸し出すための整備が期待される。



石積護岸で、水辺には草も生えているが、錆びた配管が目立ち、河川を眺めるような環境にはなっていない。(八千代坂下付近)

景観デザイン上の留意事項

水音と湯煙の演出

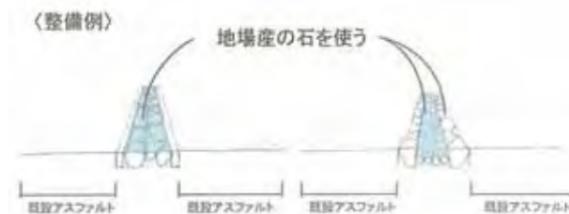
- ・河川勾配が急な場合は、落差工により流れ落ちる水音と立ち上る湯煙の演出を検討する。



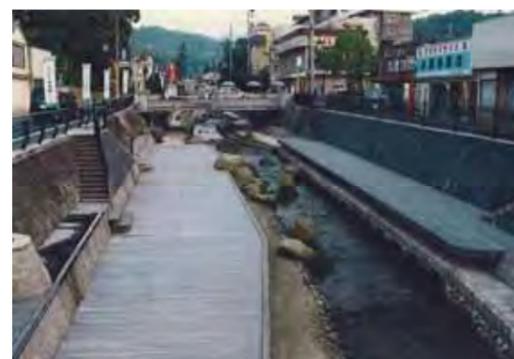
階段状の落差工をおこなうことで、心地よい水音を演出する。(ドイツバーデンバーデン)

親水性の向上

- ・親水広場：河川沿いにある沿道の休憩所や橋詰め広場に親水護岸を整備し、住民や観光客が水を身近に感じられる環境を演出する。
- ・親水歩道：河道内の高水敷を遊歩道化し、流量の少ない通常時に親水遊歩道として利用できるようにする。
- ・捨て湯水路の整備：現在、温泉街の細街路に捨て湯用の開渠を整備し、湯煙の演出や冬期の融雪水路とすることが検討されている。



捨て湯水路のイメージ図(伊香保町資料による)



水面の両脇を遊歩道として整備し、一部にウッドデッキを設置し、親水空間としても利用できる低水護岸。(島根県玉湯町)

- ・湯元親水公園の整備：湯沢川上流部の湯元地区においては、河川沿いの親水公園や、湧水(温泉)の水路に沿った遊歩道など、湯元らしさを活かした親水環境の整備が検討されている。

水辺の植栽

- ・温泉市街地内において、水辺の風情や季節感を演出するため、川辺にモミジやサクラなどを植栽し、また観光シーズン等に合わせて、それらの樹木や河川、橋等をライトアップする。

橋のデザイン的な配慮

- ・橋のデザインも、和風や大正浪漫風の街並みとの調和に配慮し、また河川環境に応じて川を眺めるためのアルコーブ(橋上広場)の設置も検討すると共に、高欄等の素材についても、質感に十分配慮する。

- ・また、橋の袂に空間的に余裕がある場合は、橋詰め広場を設け、植え込みや川を眺めて夕涼みをするための床几(ベンチ)などを配置する。

護岸や擁壁の修景

- ・街中の河川沿いのコンクリート護岸は、市街地景観の向上に向けて、出来る限り自然石積みや、石張りや化粧板で覆う、植栽で隠す等の修景処理を施す。



既設擁壁の化粧整備のイメージ図(伊香保町資料による)



湧水の小川のイメージ図(伊香保町資料による)



欄干の脇のガードレールを焦げ茶にし、管類を橋桁の下に抱かせて見えにくくするなどの景観対策により、茶褐色の黄金の湯が流れる河川やひなびた風情の感じられる橋、背後のモミジ等が引き立ち、水辺の景観が向上する。(八千代橋)

【備考】

- ・河川と一体化した公園や遊歩道整備と併せて、バリアフリーへの配慮を加えていく必要がある。

<個性と魅力の創出>

(8) ストリートファニチュアのデザイン的な配慮

現状の問題点と課題

- ・伊香保温泉の市街地には、あずま屋やバス停のベンチをはじめとして、街灯、柵、フラワーポット、サイン、彫刻、ゴミ箱等、様々なストリートファニチュア(以下SFと表記)が配置されており、これらは歩行者の利便に供するために設置される場合が多いため、温泉街の散策の際に最も目に付きやすい景観要素である。
- ・伊香保温泉街では、既に自動販売機を目隠し塀の背後に配置する、柵を目立たないように焦げ茶に着色するなどの景観対策も進められているが、一方で利益優先的な発想やデザイン的な配慮不足のため、街並み景観や自然景観を損なうSFも見られる。
- ・歩行者の利便性や快適性の向上に向けて、道路上に設置されるストリートファニチュアは、設置主体もさまざまであり、デザイン的な統一や適切な管理・更新体制なども重要な課題となる。



上部の既成の消火栓サインがやや問題ではあるが、このような地域性に配慮した好ましいSFのデザインを全町へと広げたい

景観デザイン上の留意事項

街並みと調和するデザイン的な統一

- ・街並みとの一体性を高めるために、石段街等の旧市街地においては和風の落ち着いたデザインで統一し、新市街地では情緒ある大正浪漫風のデザインで統一する。
 - ・サイン整備と同様に、素材は温泉街の情緒性や建物周囲の緑との調和に配慮して、できる限り木や石などの自然素材を活用し、色彩についても石段街、旧市街地、新市街地等の区域毎に使用できる色を限定する。
- ユニバーサルデザインへの配慮
- ・温泉市街地全体において、高齢者が休息しながら回遊できるように、店舗や旅館前に縁台やベンチを設置する。自動販売機や水飲み場等では、車椅子利用者が利用しやすいデザインにする。
 - ・外国人観光客も温泉街を快適に巡れるように、サインにはできるだけ外国語を表記するとともに、一目で機能が理解できるようにピクトグラム(絵文字)の導入を進める。

利用者に配慮した官民連携による設置と管理

- ・公共は、休憩舎やベンチ、柵、ゴミ箱等を適切に配置し、民間は道路に面した敷地に植え込みや花、灯籠(照明)などを設置して訪れる人達の街への親しみ感を高める。また、ベンチやゴミ箱の管理や清掃も、行政依存ではなく地元住民が積極的に分担実施する事が望ましい。

修景によるマイナス要素の除去

- ・自動販売機や電話ボックス、ゴミ箱など、街並みと調和しにくいストリートファニチュアは、デザイ

的な配慮だけでなく、目立ちにくい位置への配置や目隠しの設置を検討する。

個性的な景観の演出

- ・街路に面する小公園や、多くの来訪者が立ち寄り交差点付近に、伊香保温泉を象徴するモニュメントを設置し、街の芸術文化性を高める。温泉を活用した飲泉所や湯けむりが上がるモニュメント、伊香保の歴史をテーマにしたモニュメントなどが考えられる。個人や団体からの寄贈が期待される。



人を引き込む開放的な店構え。沿道の石彫と植え込みが豊かな感性を感じさせる。店先の縁台も歩行者の視線を気にせずに休憩できる配置になっている。(京都府京都市三年坂)



沿道の開放的なデザインのポケットパークに設けられた石と木のベンチとテーブル。劣化は進みやすいが、体に接する部分には木を用いることが要点となる。緋色の傘と背後の植え込みも人を呼び込むアクセントとなっている(東京都府中市深大寺参道)



石段街に設置された縁台。座布団が来訪者に対する心の暖かさを感じさせる。植木鉢は目立ちにくい茶色にし、目障りな立て看板は撤去することが望まれる。



特製収納小屋に納められた自動販売機。街並みの景観が良くなると、このような緻密な配慮をいとわない住民が増えてくる。(鳥根県石見銀山)



各旅館毎の管理責任が決まっている街中のゴミ箱。行政依存ではなく、官民連携による維持管理体制が重要である。(黒川温泉)

【備考】

- ・ストリートファニチュアは、清掃と維持・管理を徹底する必要がある。(2)参照

(9) 建築・公共施設の景観誘導

現状の問題点と課題

- ・北向きの傾斜地に立地する温泉市街地は、南側の日照条件が必ずしも良くなく、一方で、東・北・西側の眺望条件が良いため、各旅館はさまざまな方向に開口部（客室の窓）を向けている。
- ・このため、温泉旅館街の街並みには建物の表側と裏側があまりなく、個々の旅館建築においては、通常裏側に配置される非常階段や配管類、搬入口、駐車場、ゴミ置き場等の処理に苦労している。
- ・このため観光客が通る沿道部に配管やゴミ置き場等が露出してしまっている施設も見られる。
- ・旅館・ホテル等の建物については、フラット（陸）屋根で四角い大規模な建物がみられ、これらは傾斜地の地形や景観的になじまず、また下から眺めると圧迫感を感じさせる施設もあるため、周囲の自然地形や植生との調和、そして街並みとの調和への配慮が求められる。
- ・建物や駐車スペース等の隣地境界部が、ブロック塀や目立つネットフェンスに囲われ、建築と不調和な無機的で安っぽいイメージとなっている場合がある。
- ・公衆トイレの外観デザインは、ロジ風・大正ロマン風・和風・洋風と様々であり統一感に欠ける。



住宅は南に向けて建てられているが、旅館群は東西南北のさまざまな方向に客室の窓を向けており、表側、裏側がわからない不思議な街並みが形成されている。



景観デザイン上の留意事項

旅館建築等

- ・勾配屋根を用いる等、傾斜地形になじむ形をつくりだす。
- ・大規模な建築では棟を分けて建物のボリューム感・圧迫感を小さく抑える。
- ・配管類や機械類、非常階段等を、出来る限り隠し、目立たなくする建築デザインに心がける。
- ・樹木で建築の足元等を適度に隠すと共に、壁面緑化や人工地盤緑化等により、建築と周囲の自然景観との調和を図る。

- ・基礎部分では石積擁壁や緑化擁壁等の自然素材を用いて、自然地形となじませる。
- ・建物の1階高さ程度の足回り部分は、出来る限り木・土・竹・石・瓦等の自然素材や伝統的な工法を用いるようにする。

外構部等

- ・敷地内の駐車場は造園樹や雑木、のり面や石組み、屋敷稲荷等を適宜活かし、駐車車両が無くても殺風景にならないよう修景処理に心がける。
- ・敷地や外構部への、ブロック塀やネットフェンス等の無機質な素材の単独使用は出来る限り避け、目立たない色彩を用いると共に生け垣を組み合わせるなどして、景観デザイン的な配慮を盛り込む。

その他

- ・石段街周囲の旧市街の路地は、魅力的な界限空間となる可能性が高いため、商業店舗等の誘致にあたって、出来る限り増改築で防火構造等を施しながら既存建築を積極的に活かすようにする。
- ・公衆トイレ等の公共施設外観デザインは、地区毎に建築様式を統一する。



傾斜地で、下から見上げて圧迫感が生じないよう、棟を分割すると共に、傾斜地形をなじみやすい勾配屋根を用いる



建物周囲への高木の植栽や人工地盤上の緑化により、大規模な建物を周囲の地形や植生に調和させる



坂下から見上げた時の擁壁や建物の圧迫感を、適度な樹木植栽で緩和させる



建築の足元は人間的なスケールや自然素材で構成する



建物裏側の配管や機械類を出来る限り隠す



バックヤードを目隠し塀で遮蔽する



敷地外構部に、独自にデザインしたコンクリート塀と植栽を組み合わせる



石張りの塀と花とを組み合わせる



軒を2階建の高さに揃えることによって、つり合いのとれた町並みになる



石段街は公共施設のデザインを和風に統一する

【備考】

- ・路地・脇道等は歩行者中心の道路として、建物と道路の関係性やスケール感に出来る限り配慮する。
- ・個人用敷地の緑の活用など、景観領域や境界部などの曖昧な領域の扱いを工夫する。

(10) 眺望景観の演出

現状の問題点と課題

- ・伊香保温泉の魅力要素として、北方向の山岳パノラマ景観は今後その価値をさらに高めると考えられ、視程が優れ冠雪の山並みが望める秋から初夏の誘客素材の一つとして、強力にPRすべきと言えます。さらに、まちの駅や上ノ山公園、見晴台展望台等から見た温泉街の夜景も、伊香保温泉の夜間の魅力要素といえる。
- ・ただし、この場合、景観を眺める視点場の整備も重要な課題となるため、現在の各展望台を中心に魅力ある観光展望施設整備を一層推進すべきと言えます。
- ・また、各旅館においても展望(露天)風呂や展望室(望楼)の整備を進め、山岳景観や自然の光の変化を楽しませることで、特に冬季などのオフシーズンの誘客力を高めることを検討すべきと言えます。
- ・既存の展望台を含めて、眺望景観の魅力を高める上では、以下のような配慮が必要とされる。
- ・景観は、「景(見る対象の風景)」と「観(観る主体:人間)」との関係で成り立ち評価されるものであるため、「景」が秀でたものであっても「観」の人間の心理状態が悪いと景色の評価は低下してしまう。
- ・たとえば美しい風景が眺められる展望台で、観光業者が不作法に大音量の演歌を流したり、近接する公衆トイレから悪臭が漂ってくれば、観光客は気分を害し景色の評価も低下してしまう。
- ・逆に、展望台が美しく花で修景され、心地よい風や野鳥のさえずりが聞こえ、観光客の気分が高揚すれば、そこその風景であっても魅力的な風景と評価してしまう場合もあり(“あばたまエクボ”と同意)このような心理効果を活かして、展望施設の価値の向上策を検討していく必要がある。

景観デザイン上の留意事項

美しい展望環境の整備

- ・花に囲まれ、美しい風景をじっくりと味わうことの出来るベンチのある展望園地を整備する。
- ・既存の展望台については、デッキ部分の舗装等や柵のデザインを改善し、花による修景を加えて、快適な展望台整備を心がける。

屋内展望台の整備

- ・冬季でも快適な展望が楽しめるよう、屋内展望施設を整備する。
- ・この場合、自然の風や音や香りを楽しめる屋外テラスの等の併設が肝要である。

展望レストラン等の整備

- ・おいしい飲み物や料理を味わいながら、美しい風景を堪能できるような、展望喫茶室(カフェ)や展望レストランを整備する。



ベンチのある展望園地(ドイツハイデルベルグ)



花による展望台の修景も魅力向上の重要な要件となる(洞爺湖展望台)



緑に囲まれた屋内展望台(カナダバンフ国立公園)



展望台における舗装や柵にも、統一された素材感や雰囲気づくりがほしい(兵庫県神戸市布引ハーブ園)

夜間も含めた光による街の演出

- ・夜間の風景のみでなく、展望地点から眺める夜景や、夜間の街中の風景など、建物や看板の電球色等の統一や、境界性や季節性を演出するイルミネーションやライトアップの導入を図り、夜の温泉地の魅力を向上させる。



夜間に屋外での語らいの場を整備したい(スイスベルン)



ゆっくりと眺望を堪能できる展望レストラン(勝沼町ブドウの丘レストラン)

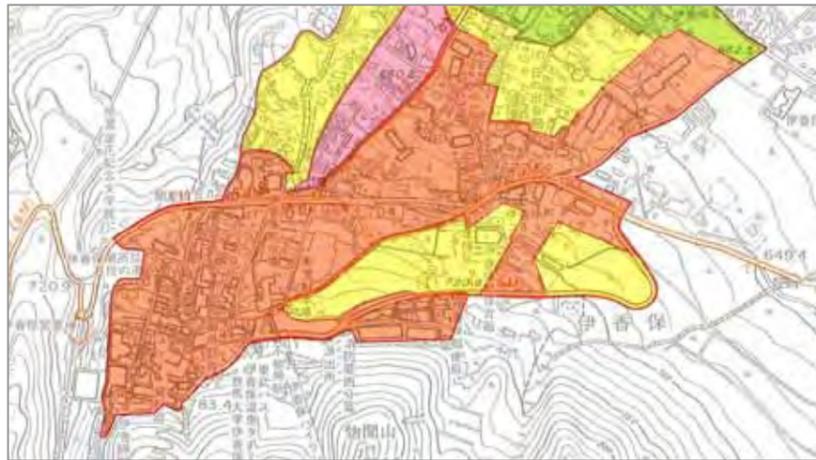
【備考】

- ・伊香保町からの眺望対象は草津白根方面から子持山、小野子山、そして赤城山方面と180度を超えて多様であるため、展望地点毎に眺望範囲や主要眺望対象を明示し、見える範囲や見え方の違いを明らかにする事なども重要である。

(11) シンボル道路の整備

現状の問題点と課題

- ・ 温泉市街地を横断する主要地方道渋川・松井田線（一文字通り）は、現状では市街地を分断するイメージが強く、人々が集まり南北の市街地を結びつけるシンボル道路になっていない。
- ・ 街のメインゲートであり、メインストリートでもある一文字通りの景観が混乱しており、伊香保町のイメージ向上に結びついていない。
- ・ 一文字通りは沿道部の市街地化が進んでおり、また地形的にも道路の拡幅が難しいため、基本的には現況の道路構造の中で、道路景観の向上策やシンボル性の向上策を検討していく必要がある。



第1種中高層住居専用地域	緑色
第1種住居地域	黄色
近隣商業地域	ピンク
商業地域	オレンジ

一文字通りの両側は、商業地域に指定されており、旅館街としての一体的な空間整備が求められているものの、実態は道路によって地区が分断されたイメージとなってしまう。



市街地の入り口部分は比較的自然性の高い良好な景観であるが、街中に入ると、幹線としてはやや狭い道路と、新旧・大小が入り混じった建築群や乱雑な看板・サイン類、蜘蛛の巣のような電柱・電線が、美しさに欠けた乱れた沿道景観を作り出しており、歴史性や文化性という伊香保のイメージを期待して訪れた人々を落胆させる。

景観デザイン上の留意事項

道路景観のマイナス要因の排除

- ・ 電線の地中化
- ・ 誘導看板類の統合サイン化
- ・ 屋上看板類、沿道看板類の規制
- ・ 旅館・店舗用看板類のデザインコードの作成



擁壁の上部、前面の景観対策例

沿道景観の向上施策の展開

- ・ 沿道建築の誘導（位置、様式、色彩等）
 - ・ 建築様式を大正ロマン風に整え、建てかえ時には道路から1～3m程度のセットバックをルール化し、沿道部への街路樹代わりのシンボルツリーの植栽により、道路景観の向上に協力してもらうことなどを検討する。
- ・ 沿道商業の誘導
 - ・ シンボル道路としていくためには、一文字通りに人々を引き付けて活気のある通りにしていく必要がある。沿道部には、旅館と共に土産品店等の観光関連商業店舗を誘致していく必要がある。
 - ・ 駐車スペースの制約があるため、一般商業はすでに立地が進みつつあるかみなり坂などに、集積させていくこととなる。
- ・ 沿道緑化と修景の促進
 - ・ 道路幅員が狭く、歩道が確保できない場所もあることから並木を育成することは難しいため、沿道の地権者の協力を得て、沿道部の敷地内への樹木の植栽や擁壁上の緑化等を進めてもらう必要がある。
- ・ ゲート性の演出
 - ・ 旅館の玄関同様に、来訪者を迎え入れる町の玄関部における、ゲート環境の演出も重要であり、品格のあるゲート環境整備を進める必要がある。



民地内の沿道部の樹木が育つと沿道環境が向上すると共に、沿道の建築群が部分的に遮蔽され、街並みの乱雑感を緩和する。



沿道のアパートも、道路に活気を生み出すために一階部分を店舗化する事が期待される。



伊香保町の花ツツジを用いて、魅力的に整備されたのり面の植え込みと桜並木を、沿道景観の向上に活かす配慮が求められる。



左頁写真の町の入り口部分では、道路管理者と沿道の地権者の協力を得て、ゲート性を高めるために、柵のセットバック、樹木の剪定、路肩の草地化（左）、そして品格のあるゲートサインの設置（右）などを検討すべきと言えよう。



ゲートサインの例（筑波研究学園都市）

【備考】

- ・ 事業化にあたっては、シンボル道路整備に関するハード面、ソフト面を複合させた整備計画を策定する必要がある。

5章 推進方策

1. 規制・誘導手法の検討

- ・平成16年12月に施行された景観法により、景観整備への取り組みは従来と比べてより容易になった。また、これと合わせて屋外広告物法も改正され、市町村による条例制定や規制が進めやすくなっている。
- ・しかし、法的な対応は容易になったとはいえ、景観整備は行政のみで進められるものではなく、また、景観整備事業を進めるにあたっては、景観行政自治体として専任の職員も配置する必要があるため、本格的な景観計画の策定や景観地区指定等に伊香保町がすぐに取り組めると言うわけではない。
- ・また、平成18年2月には渋川市との合併が実施されるため、合併後には景観行政団体としての景観計画の策定や景観条例の制定もより可能性が高まることから、今回の調査は、そこに向けた伊香保町地域の先行的な取り組みによる、景観地区指定に向けた意思表示として位置づけて置くべきと言えよう。
- ・また、本調査の実施経緯については、“はじめに”に記述しているように、「従来型温泉地再生戦略」等の新規事業の導入整備にあたって、質の高い温泉地環境の実現化に向けた景観調整(ガイドライン)のための基礎調査でもあり、本調査を踏まえた新年度におけるルール(デザイン指針)のとりまとめも視野に置かれている。
- ・このデザイン指針は、基本設計に対応した景観規制・誘導条件でもあり、本調査の結果を踏まえた適度な景観誘導フレームが取りまとめられることが求められている。

2. 推進体制

- ・ 景観整備は「継観整備」とも言われており、人間の視野に入る、たとえば道路とその周囲の民地や商業施設、公共施設等のすべてを一体的にとらえ、街並み景観として統一的なデザイン整備を行うことが求められる。
- ・ したがって「継観整備」を行うにあたっては、行政のみならず地域の住民や事業者の主体的な参加や協力が不可欠であり、このような官民すべての協力が無い限りは魅力ある地域景観の実現は不可欠である。
- ・ 伊香保町においても景観整備の必要性は従前から叫ばれており、多くの行政のみならず住民や事業者がそれぞれの観点から取り組みを行ってきたが、残念ながら個々の施設のデザインの向上のレベルでとどまり、景観整備の「作法（基礎的な認識とその手法）」が共通認識となっていないため「継観」にまで至っていない。
- ・ 今回の調査においても、景観デザインの優れた取り組みに対しては評価を加えているが、町民全体が景観意識を高め、景観を公共の資産として認識し、後の世代にこの景観資産を継承していこうとする意欲を持たない限り、景観整備事業は容易には進まない。
- ・ しかし、一方で、景観を公共の資産として認識している欧米地域の都市や観光地を訪れ、美しく魅力ある都市や観光地の景観を体験している観光客からは、日本の観光地における景観整備の遅れが厳しく指摘される時代となっており、温泉観光地伊香保としては、指をこまねいて住民全体の意識が高まり機が熟するのを待っているわけにはいかない状態にある。
- ・ このような状況を踏まえ、以下においては、景観整備の推進に関わる行政、民間、事業者の役割と責任を整理すると共に、景観意識の啓発や基本的な“景観作法”の理解促進、そして意欲的な取り組みに対する支援体制まで、今後の事業推進に関わる多様な施策に関する整理を行う。

(1) 各主体の役割

・ 各主体は、以下のような役割を認識し、伊香保町の景観向上に努めるものとする。

< 住民の役割 >

- ・ 町民は、地域景観が町民共有のものであり、互いに協力して作り上げていくものであることを自覚し、一人一人が住宅建築、美化、清掃、緑化、不快物の除去隠蔽、コミュニティー活動の推進等、景観づくりの“作法”を理解し、美しく快適な生活景観づくりに心がけあるいはこれに協力するものとする。
- ・ また、伊香保町は住民の約9割弱が第3次産業に依存する観光立町である点を認識し、“茶の間づくりよりも客間づくりを”の意識で、一般の町よりもより美しく魅力あるまちづくりを目指して、行政、観光事業者と共に、外部に誇りうる景観整備を推進するものとする。

< 事業者の役割 >

- ・ 事業者は、企業が地域景観の形成に果たすべき社会的責任と、まちづくり景観づくりのための作法（基礎的な認識とその手法）を十分自覚しつつ、自らの事業の構想、計画、実施のそれぞれの段階に応じて、当該事業が地域景観に及ぼす影響に十分留意し、活気や個性を感じさせると同時に、総体としての秩序ある景観づくりに努めるものとする。
- ・ 特に観光事業者は、今後の観光事業の展開においては、地域景観の良否が観光事業に重要な影響を及ぼす点を強く認識し、住民や一般事業者に率先して景観整備、配慮に取り組む姿勢を明確に打ち出すべきであり、特に街並み整備、緑化推進、看板類の規制、ストリートファニチュア類の管理等を一丸となって進めるものとする。

< 行政の役割 >

- ・ 行政は、地域全体の景観が好ましい方向へ向かうことについて、中心的な役割を担うべきであり、このため、本資料の内容を十分理解すると共に本資料の内容実現に向けた姿勢を明らかにし、率先してその具現化を図るものとする。
- ・ 行政職員は景観整備の意義を認識し、行政施策の推進にあたっては本資料の内容との整合に十分配慮すると共に、町民および事業者が良好な景観づくりを行うにあたっては適切な支援や指導體制を整え、景観づくりの作法や技術の理解と定着（しきたり）化を図り、また優れた景観資源を保全活用し、新たな景観資源を創造するための諸計画・諸施策を積極的に推進する責務を負う。

(2) 推進体制

<住民、事業者>

・住民や事業者の多くが景観整備の実践に動き出すためには、以下の3つのレベルの啓発支援事業を、行政が継続して実施していく必要がある。

- 1) 景観整備の意義を理解してもらうための「景観啓発事業」
- 2) 景観整備に興味を持った人達に対する「景観情報提供事業」
- 3) 景観整備に主体的に取り組む人達に対する「景観整備支援事業」

・各事業の取り組み例としては、以下のようなものがある。

- 1) 景観整備の意味を理解してもらうための「景観啓発事業」
 - ・町内景観ウォークの実施
 - ・街並み絵画コンテスト(子供対象) 景観写真コンテスト(大人対象)
 - ・公共施設の景観デザインの推進と広報
 - ・新伊香保八景の選定等
- 2) 景観整備に興味を持った人達に対する「景観情報提供事業」
 - ・“景観作法”等に関する景観セミナー、住宅づくりセミナーの実施
 - ・伊香保景観ガイドブックの作成配布
 - ・景観ガイドライン(本格的なもの)の作成配布等
- 3) 景観整備に主体的に取り組む人達に対する「景観整備支援事業」
 - ・伊香保景観章、建築章による表彰
 - ・景観整備助成交付金制度の制定
 - ・花苗の配布事業等

<行政>

- ・景観整備は50年、100年の大系であるだけに、事業の推進にあたっては「景観条例」を制定し、行政の専任事業として位置づけることが重要である。
- ・また景観担当者には、ある程度の専門知識が必要とされるため、できれば建築、土木の知識のある専任者を置くことが必要であるが、それが難しい場合は、県職員等の頭脳支援を依頼する共に、前橋工科大学等の地元の大学の専門家に定期的な指導を依頼することとも考えられる。
- ・最も重要なことは、<行政の役割>でも記述してある、「行政職員における景観整備の意義の認識と、景観整備の実践に対する責務への認識」であり、行政内でも定期的に学習会を開催し、各種事業における景観配慮の実践に向けて、行政内の横断連係体制の確立を進めると共に、町民や事業者に対する景観づくりの基本的な作法の啓発理解を進め、その定着(しきたり)化を進めることにより、まちの景観向上に向けた全町的な動きを常態化する必要がある。